

夏は日が長くなり、外で遊んだり外出したりする機会が増える季節です。しかし、暑さや疲れから注意力が下がり、ケガや事故を起こしやすくなります。お子様と外出する際は、交通ルール等の再確認をしましょう。



【くるまの注意】

夏は気温が高くなり、車の中はとても暑くなります。短い時間でも車の中に子どもだけが残ることは大変危険です。必ず大人と一緒に行動しましょう。また、窓を開ける際も手や足、顔が挟まらないように大人が開け閉めするようにしましょう。



【みずの注意】

海や川、プールの水難事故のニュースは毎年のように流れてきます。子どもは、溺れる時、もがかず静かに溺れます。また、反射が働かず水を吸い込むことも。海、川、プール、キャンプ場でも絶対に目を離さないようにしましょう。

【よるの注意】

子どもと夜に外出する機会は普段あまりないかもしれませんが、夏になると夏祭りや花火大会などあるかと思います。その際、夜は夜光反射材があると車の運転手からも早めに発見できます。家族で身につけ、子どもが迷子にならないように「かもしかつなぎ」をしましょう。



【脱水症状・熱中症の注意】

体の水分量が大人より多い幼児は、脱水症状を起こしやすく、わずかな時間で熱中症を発症し症状が悪化します。外を歩く時は帽子をかぶり頭を守りましょう。日が当たっている場合と当たっていない場合 5℃も温度に差がでます。

【まとめ】

夏休みの季節となり、地域には海水浴や観光を目的とした人や車が増えてきます。普段より交通量が多くなり、子どもたちにとって思わぬ事故やトラブルが起こりやすい時期です。誘拐にも気をつけましょう。子どもと一緒に「いかのおすし」を覚えておくといいと思います。交通意識と防犯意識を高め、家庭でもおたよりをみながら子どもの命を守る方法を共有してほしいと思います。

おぼえよう！



こんな夏の事故おきてます

娘から保育園の送りを頼まれた祖母は、孫の幼児（2歳）を保育園に送ることを忘れそのまま出勤。幼児は車内に置き去りになり、熱中症で死亡。

夏祭りにわたあめの割りばしをくわえたまま転倒し、喉に刺さり4歳の男の子が死亡。

車内の棒つきお菓子にも注意！